

世代や国を超えて広がる音楽の輪

プロから学ぶ楽器の魅力 初心者のための楽器体験講座

ファミリー音楽教室



先生のアドバイスを思い出しながら何度も練習

「弓を当てる角度を変えると音がきれいになりますよ」とバイオリンの講師(左)。「音楽が好きという気持ちのまま、少しずつ向上しているようにアドバイスしています」

正しい姿勢が大切なんだ

大人の人と一緒に練習も楽しい

小学生も挑戦

練習中の表情は真剣そのもの。指の位置などを一人一人にアドバイスします

「楽器が弾けるようになったらいいな」「自己流なのでプロに習いたい」。ファミリー音楽教室(新宿未来創造財団主催)は、西新宿を拠点とする東京フィルハーモニー交響楽団の監修による、初心者向けの教室です。楽器に触れるのが初めての方から少し習ったことがある方まで、数名ずつにクラス分け。同交響楽団事業部の佐藤若菜さんは、「楽器を弾いてみたいと思った方が気軽に始めるきっかけになれば」と話します。「クラスごとに目標を決めて練習します。お互いが上達していく喜びから、7回の講習が終わった後も自主的に集まって練習を続けるグループもあるんですよ」。

この日、バイオリンの講習に参加した男性は、「50代から始めました。パッヘルベルのカノン弾くのが目標です。皆さんと一緒に、より楽しく練習できますね」と、講師のアドバイスに熱心に耳を傾けていました。フルートの講師は「好きな音楽を表現できるお手伝いができればと思っています。これを機に、演奏会などでも音楽を楽しんでほしいですね」。

楽器を通して、音楽の楽しみも深まりそうです。

楽器で触れる外国文化 音楽が新宿と世界を結ぶ

韓国伝統楽器講座

外国の方も多く住む新宿では、音楽が互いの交流の架け橋になっています。四谷の韓国文化院が主催する韓国伝統楽器講座では、打楽器のチャングや管楽器のタンソなど、映画やテレビドラマで見る楽器を気軽に学べます。「楽器を通して韓国の文化を知ってほしい」と話すのは韓国文化院の清水中一さん。「この講座では、日本では学ぶ機会が少ない楽器を取り上げています。ドラマで韓国に興味を持った、音楽が好きで民族楽器を習いたいなど、さまざまな方が学んでいますよ」。

今回伺ったのは、竹で作られた管楽器「テグム」の初級講座。これまでに習った曲を復習した後、新しい音の出し方を教わりました。わずかな指の動きでより深みのある音色が出るところに、この楽器の魅力があるそうです。

この日は尺八奏者の男性も参加。「外国の楽器を習うことは、その国の文化や考え方を知ることにもつながります。学んだ演奏技術は、日本の楽器を演奏するときのヒントにもなりますよ」と、楽器を通じた文化交流を楽しんでいました。

韓国語や歴史に興味を持った方が楽器を習いに来ることも多いそう。参加者同士でもアドバイス合せて、曲を完成させていきます



五線譜とは大きく異なる楽譜。指導を受けた細かい吹き方を書き込みます



雅楽の楽器と似ていて興味を持ちました



大きな笛なので指づかいが難しい

より高度な吹き方に挑戦

駐日韓国大使館 韓国文化院
音楽・美術・スポーツなど、さまざまな韓国文化を紹介する施設です。イベントや展示、講座のほか、図書映像資料室では書籍や映像資料が閲覧できます。
【所在地】四谷4-4-10
【電話番号】☎(3357) 5970
【ホームページ】🌐 <http://www.koreanculture.jp/>



伝統的な暮らしの空間を再現した「サランバン」では韓国伝統茶の体験もできます

韓国国立国楽院から派遣された講師が来日し指導しています。専門家の演奏をそばで聴けるのも貴重な経験

新宿区役所本庁舎・第1分庁舎・第2分庁舎の代表電話は☎(3209) 1111、新宿区ホームページは🌐 <http://www.city.shinjuku.lg.jp/>です。

音楽を育み慈しむ新宿の人と街

コンサートホールやライブハウスのほかにも、新宿には音楽が生まれる場所がたくさんあり、世代や国を超えた交流が広がっています。今回は、音づくりに携わる方や、初心者でも楽しめる音楽教室を紹介します。

【問合せ】区政情報課広報係(本庁舎3階) ☎(5273) 4064へ。

技術と知識で演奏を支える技の名匠

石森信二さん サクソフォン製造/石森管楽器

目指すは1950年代の柔らかい音。いい音の追求に終わりはありません。



修理スタッフは10名。修理で蓄積したアイデアを楽器づくりに生かします



オリジナルブランド「ワッドストーン」のテナリサクソフォン。10月から販売し50本を完売

区内のものづくり産業の振興を目的に、優れた技術や技能をお持ちの方を区が認定する「新宿ものづくりマイスター」制度。新宿には楽器の販売や修理・調整を手掛けるお店が多数あり、楽器製造・修理の分野から4名の方をマイスターに認定しています。

長年培った技術やアイデアを基に、オリジナルのサクソフォンを製造販売するのは石森信二さん。試作品をプロの方に試してもらい、改良を重ねてきました。「イメージしたのは1950年代の懐かしい音。ライブで笑顔のプレーヤーを見るのが一番の喜びです」。

山本隆志さんのお店には、コントラバスの修理依頼とともに、新しい音を求めて演奏家が集まって来るそう。「ここでミュージシャン同士が顔を合わせることも多く、世代やジャンルを超えて、音楽談義に花を咲かせていますよ」と山本さん。プロとアマチュアの交流の場にもなっているようです。

山本隆志さん コントラバス修理/弦楽器の山本

楽器の不備を我慢して弾くのは楽しくない。初心者でも楽しく弾けるようにしてあげたいですね。



ベーシストの荒川康男さん(左)と。「プレーヤーは一人一人出したい音が違うもの。山本さんはその違いを理解して、調整したりアドバイスしてくれる。だから安心して弾くことだけに集中できます」



直線のないコントラバスは何種類ものカンナを使い分けて丁寧に削ります



楽器は修理や調整をしながら長く使うもの。楽器を大切にすることは、音楽を愛する心につながります。「今はもう製造されていないヴィンテージの楽器を直したこともあります」と話すのは高橋一朗さん。「部品がないところは自分で工夫して直すのが面白いし、出なかった音が出るようになると、やはりうれしいですね」。

熟練の技術には、国内外の演奏家も厚い信頼を寄せていて、伊藤史安さんはCDの録音に立ち会うこともあるそう。「演奏会前や録音のときなどは演奏家もナーバスに。楽器の調整が万全なことが確認できれば、安心して演奏に臨めるようです」。

より良い音のための創意工夫を積み重ねてきた匠の技は、心安らぐ音楽を創るための一つの源になっているようです。

高橋一朗さん 管楽器修理/高橋管楽器

100年前の楽器でも修理。同じものが2つとないのが修理の面白さです。



お客さんは海外からも。どこが悪いかわかれば分かるから言葉が通じなくても大丈夫



幼いころからのつくりが好きだったので細かい作業も苦になりません



一緒に仕事をする長男の大輔さん(右)。熟練の技を伝えています

伊藤史安さん フルート修理/村松楽器販売

プレーヤーが何となく感じる違和感をなくし安心させてあげることが大切です。



実際に吹きながら音を見極めます



修理道具は自分で工夫。カセットテープなど身近なものも使います



ともに働く修理スタッフの皆さんと